

首都圏増田会だより

37
2022.6

首都圏増田会総会
2022年11月20日(日)
オーラム

今年は絶対笑顔であいましょう

新緑の能美溪谷(狹半内字川口地内)

再会を楽しみに

横手市まちづくり推進部 増田地域課 課長 齋藤 弘(八木)



首都圏増田会の会員ならびに役員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？日ごろからふるさと増田に並々ならぬ思いを寄せられ、多方面にわたりご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

コロナ禍にあり、ここ2年総会が開かれず、皆様とお会いすることが叶わずに残念でなりません。

ふるさと増田は、2年連続の大雪に見舞われましたが春にはキチンと消えるもので、桜・リンゴの花の季節を見送り、また、田植え作業も無事終わり、遠くに鳥海山を望みながら、辺り一面、早苗田が広がっており、皆様方の記憶に残るかつてのそれと変わらぬ情景を残しています。

歴史的まちなみが残る「中七日町通り」は、電線地下埋設による電柱無柱化工事が終わり、すっきりとした景観が広がっています。「電気は増田からやってくる」といわれた当地において、電柱は在るべきという見方もございましたが、地震時による電柱倒壊の危険や冬期間の積雪による狭小な道幅を思いますと歩行者の安全については、安心が増すものと思われます。10月2日(日)には、「増田蔵の日」イベントも開催される予定です。ぜひ足をお運びください。

私事になりますが、平成11から14年の4年間、増田町役場で首都圏増田会担当をさせていただきました。ふるさとの味として皆様が楽しみにしておられました「イモの子汁納豆汁」を地元から運搬しておりましたが、豆腐の具合が悪くなり、開会直前に振る舞いをストップした苦い経験がございます。当時の石山町長から「お前はクビだ」と叱られましたが、翌年から会場近くの豆腐屋で調達し、以後、事なきを得て私の首もつながっています。

総会・交流会での歌や踊りの楽しいアトラクション、カラオケや民謡へ送られる手拍子、地場産品が当たる大抽選会、何ととっても同郷同士ならではのほのぼの会話。どれをとっても特別なひとときで、お開き前に全員で腕を組み涙して歌う「ふるさと」の大合唱の光景は今でも忘れることができません。

日本中でワクチン接種の高まりとともに、コロナの脅威が1日も早く収束へと向かうことを祈念して止みません。今秋、東上野でたくさんの皆様の笑顔と再会できますよう。



ああ・ふるさとの味

首都圏増田会 会長 細野 芳之助(小栗山)



冬が終わりをつけ、私の生まれ育ったところでは、雪解けとともに春の香りや山菜の香りでいっぱいになり、子供のころ母親と一緒に山に蕨などの山菜を取りに行ったのが昨日のように浮かんでまいります。毎年この時期には、田舎の兄弟より蕨が届き、酒のつまみにふるさとの味を食しており、年々酒の量が増えております。

ここ2年新型コロナウイルス感染症の関係で、会員の皆様と会う機会がなくなり、今年こそは総会を開催し、お会いできると信じております。私たち役員一同の様な形で総会を開催するのがよいか、日々考えております。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、会員の皆様の安心・安全が確保されるよう工夫して、開催したいと思っております。

また、会員の皆様とふるさと探訪をしたいと思っております。故郷の山や川が目をつむると浮かんでまいります。

これからも役員一同力を合わせて、総会の開催に向けて一層の努力をいたしますとともに、増田会の発展に努めてまいりたいと思っております。総会の開催時には、皆さん元気な笑顔で大勢の参加をお待ちしております。

今後とも会員の皆様の温かいご支援をお願いいたします。

皆さん お元気ですか？

首都圏増田会 幹事長 越後 英雄(本町)



会員の皆様お元気でしょうか？

今年2022年の前半、ふるさと増田はコロナ禍で首都圏との往来が制限され、身内でさえ会えない時期が続いていました。しかし、ゴールデンウィークごろより徐々に往来する方も増え始めました。

首都圏増田会の活動も、2020年の春から総会や交流会はもちろん役員会も全てストップして本当に歯がゆい思いが続いていました。

しかし、2022年5月になり、コロナの第6波も終息が見えてきています。この調子で進めば、2022年11月20日(日)に予定している総会・交流会も、コロナ感染防止対策の工夫を加えることで開催が出来そうです。今まで会えなかった分を取り戻し、皆様と直接お会いできる会合にしたいと役員一同知恵を出し合っています。

役員会もそろそろ開催できると思います。皆様も秋の再会を楽しみに、より一層の感染防止を心掛けましょう。会員の皆様との再会を心よりお待ちしております。

ジャンボカボチャ



狙半内地区交流センターでジャンボカボチャ展示会が開催されました。住民同士の結びつきを強めて地域を盛り上げようということで、令和3年で3回目となります。狙半内地区6集落から3個ずつ出品してもらい、大きさを競いました。1位は重さ76kgを記録した中村集落。前年の最下位から見事にトップとなりました。各集落とも楽しみながら取り組むことができました。

増田小学校ミニ幻灯



2月25日、増田小学校校内通路でミニ幻灯が行われました。児童たちが雪壁に穴を掘り、ロウソクを立て、火を灯しました。新型コロナウイルス感染により中止となった「元祖さるはんない幻灯」で使わなくなったロウソクを譲っていただき実施したものです。見学に来た地域住民も感動していた様子でした。

Wリーグ開幕



10月23、24日、増田体育館でバスケットボール女子国内最高峰Wリーグの開幕戦が行われました。令和3年から新規参入の地元チーム「アランマーレ秋田」の初試合ということもあり、両日で1000人を超えるファンが詰めかけました。プロの迫力あるプレーに魅了され会場は熱気に包まれました。

書初め大会



1月8日、増田生涯学習センター主催の書初め大会が増田地区多目的研修センターで行われました。参加した子ども達は、手本を見ながら真剣に筆を運びました。作品の中には、まるで達人の方が書いたようなものもあり、増田っ子のレベルの高さを感じました。

りんごのことを知る



10月16日、亀田地区交流センター主催の「りんごの園地散策・もぎ取り体験」が行われ、住民20人が参加しました。雪害から守るために枝を上向きから下向きに改良したり、日ごろの作業のことを学びながら樹園地を散策し、最後にシナノスイートのもぎ取りを体験しました。あいにくの雨でしたが、参加者は改めて「りんごの産地増田」の魅力を感じとることができました。

ポーセラーツ体験



11月25日、増田地区交流センター主催のポーセラーツ体験が行われました。ポーセラーツは、真っ白な陶器に好きな色や模様の転写紙を貼ってオリジナルの作品をつくるハンドクラフトです。今回は、クリスマス用の作品を作りました。参加者は、それぞれの感性で素敵な作品を完成させました。



参加者の作品です。

増田町の出来事

～ 令和3年度に行われた行事を紹介 ～

西成瀬防災研修会



7月10日、西成瀬地区交流センターで防災研修会が開催され、元秋田気象台長で気象キャスターの和田幸一郎さんが講演しました。普段から気象情報を小まめに確認すること、危険箇所や避難経路を把握しておくこと、非常持ち出し品に携帯電話の携帯式充電器を準備することなどをお話しされました。参加者は、真剣に耳を傾けていました。

増田中学校祭



10月9日、「灯せ 世界一周の成果へ」をテーマに増田中学校祭が行われました。新型コロナウイルス感染防止のため、飲食コーナーは設けず展示コーナーとステージ発表のみ行いました。ステージでは、合唱コンクール、太鼓、盆踊り、吹奏楽演奏、理科研究発表、英語暗唱が披露されました。堂々と披露する生徒たちの頑張りに元気をもらいました。

サキホコレを育てました



増田小学校5年生が農業体験を行いました。増田高校農業科学科の生徒が先生役で、分かりやすく教えてくれました。令和3年は、秋田県の新品種「サキホコレ」を育てました。種まき・田植え・稲刈りを行い、秋には収穫した米をみんなでおいしく食べました。

願いを込めて灯籠祭



9月14日、中七日町町内会主催で、灯籠祭が開催されました。町内会や増田小学校、中学校の児童生徒の手作りによる灯籠500個が中七日町通り（約300m）に並び、夜道を彩りました。灯籠には、「疫病退散」「コロナに負けるな」などの願いが書かれており、コロナ禍の早期終息を願いました。児童生徒の灯籠には、それぞれの目標など個々の思いも込められていました。

自然体験塾



釣りキチ三平の里体験学習館主催の自然体験塾が開催されました。年12回（毎月1回）のペースで動植物観察、登山などの自然と関わる活動を体験し、自然を知ってもらおうものです。参加した子ども達は、楽しく自然と打ち解けていました。

夜空を彩る花火



9月14日、「第97回増田の花火」が開催され、秋の夜空を彩りました。コロナウイルス感染拡大防止のため前年は中止でしたが、令和3年は栈敷席や特設駐車場は設けず、人の流れや密状態を作らないように気をつけての実施となりました。約2,500発の花火が住民の心を和ませてくれました。

真人公園は、大正6年（1917年）までかかって造園されたことから、今年で開園105年になります。増田町史には次のように書かれています。

真人公園は、真人山の北西部を重点的に整備し造られた。特に沢口沼を拡張して池に造り変え、上段を広場にし、なお、その上部に帯状の広場を造った。北面は元スキー場として整備されていたが、現在は桜を中心としての植樹が行われており（首都圏増田会・全県植樹祭などの実施）、南面は成瀬川対岸からの景色が京都の嵐山に似ていることから、風流人によって詩歌が多く読まれている。真人山は、造園以前から老松が生い茂る自然公園（真人山公園）として地域の憩いの場であった。



現在の公園は、長坂又兵衛翁※1が造園を図り、町では明治44年5月より長岡安平翁※2の設計に基づき、事業費1万円、10ヶ年計画として在来の公園の南方に事業着手した（『増田郷土史』・大正3年3月15日付「秋田魁新報」）。このようにして大正6年（1917年）までかかって造園されたが、この公園整備事業は、当初明治天皇即位五十周年記念事業として計画され、後に大正天皇即位記念事業に変更されている（「各年度増田町会議事録」）。

出典：増田町史（抜粋）

今回は、「Moja.net※3」のご協力によりコロナ禍で訪れる事が出来ないふるさと増田の真人公園の桜等の映像を右のQRコードより見ることが出来ます。少しでもふるさと増田を感じていただければ幸いです。

<https://www.youtube.com/watch?v=GyDT4izpqvE>



※1 長坂又兵衛翁

縫殿村生まれで十八歳で家を継ぐ。みそ・しょうゆ醸造会社を設立。また、郡立農事講習所所長を務めるなど養蚕業にも尽力。その他、電気事業をはじめ数々の事業に貢献した。

出典：増田町史

※2 長岡安平翁

大村藩出身で、明治・大正の時代に東京の芝公園をはじめ、全国各地の公園・庭園の設計や街路樹苗木の育成、史跡名勝天然記念物の保存に尽力した人物。

出典：[図録]祖庭長岡安平翁 長岡安平の近代公園における功績

※3 Moja.net（モジャネット）

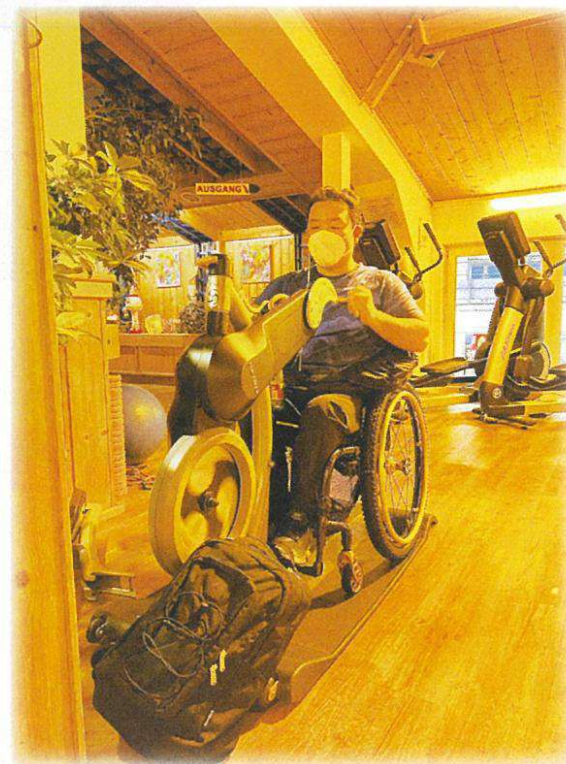
秋田県横手市増田町在住のクリエイター。増田町をはじめとする美しい自然や風景をドローン等により撮影し、ユーチューブにアップし続けている。

横手市増田町（湯野沢）出身の藤原哲選手。高校生の時、合宿中のスキー事故が原因で車いすの生活に。

33歳の時に知人の紹介でチェアスキーと出会い、その魅力にのめり込み猛特訓の末、北京パラリンピック日本代表入りを果たしました。

今大会では、4種目のアルペン競技に出場し、3月10日に行われた男子大回転（座位）では、多くの選手が転倒する中、華麗なフォームで急勾配のコースを最後まで滑りきりました。けがを乗り越え世界の舞台で活躍する哲選手の姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。4年後のミラノ&コルティナ・ダンペッツォパラリンピック（イタリア）出場も期待しています。

【広報よこて2022年4月号（No.374）より】



練習中の藤原哲選手

北京2022 冬季パラリンピック

感銘

藤原 哲 選手
(横手市増田町湯野沢出身)

アルペンスキー
ポジション/クラス：LW11



感動をありがとう

3月6、10、13日には、増田地域局で北京パラリンピックのパブリックビューイングが開催されました。藤原哲選手を応援するため、毎回地域住民約60人が集まり大声援を送りました。メダルには届きませんでしたが、困難を乗り越えて勇猛果敢にコースを攻める姿に感動しました。



【北京2022パラリンピック冬季競技大会 藤原哲選手の成績】

スーパー G	途中棄権(1回目)	大回転	23位(1回目24位、2回目25位)
スーパー複合	途中棄権(1回目スーパー G)	回 転	途中棄権(1回目22位、2回目途中棄権)

※よこてfun通信（2022. 6 Vol. 28）P 6にも本人への取材記事が掲載されております。

お願いー連絡ー

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金は減額となりました。そのため、増田会だよりの発行について、次のようにさせていただきます。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止させていただきました。ただし、総会への参加は1人でも多くの方々の参加を期待しています。

皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

令和3年度首都圏増田会収支報告

令和3年10月1日現在

首都圏増田会の令和3年度の収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	備 考
会 費	202,858	▲97,142	2,000円/年(手数料差引後)
総 会 会 費	0	▲640,000	68人
補 助 金	58,225	8,225	横手市より
繰 越 金	645,606	0	
預 金 利 子	4	2	
諸 収 入	0	▲300,000	総会祝儀(0円) 広告収入(0円)
収 入 合 計	906,693	▲1,028,915	

【支出の部】			
項 目	金額(円)	比 較	備 考
総 会 費	23,305	▲1,126,695	会場費、宴会費用他
会 議 費	0	▲200,000	役員会 3回
渉 外 費	0	▲180,000	横手市ふるさと会連絡協議会ほか
慶 弔 費	0	▲20,000	
広 告 費	50,000	▲20,000	増田の火花協賛金
通 信 費	51,104	▲18,896	増田会だより印刷代ほか
事業部活動費	0	▲30,000	役員研修会 増田会だより(広報部)
手 数 料	2,530	▲4,470	送金手数料
事 務 費	0	▲15,000	事務消耗品ほか 役員会案内切手・はがき代
総会準備費	0	▲50,000	
予 備 費	0	▲143,608	役員名刺代3名ほか
支 出 合 計	126,939	▲1,808,669	

収支差引残金 779,754円は翌年度へ繰越

令和3年10月1日 首都圏増田会 会長 細野 芳之助

第37回首都圏増田会総会

■期日 11月20日(日)午前11:30～
■場所 オーラム(令和元年と同じ場所です)
住所 東京都台東区東上野1-26-2
電話 03-5812-1123

会費 8,000円

新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、今年会員の皆さまの安全を十分に確保し、工夫のうえ、ぜひ開催したいと考えております。

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に載せる写真を募集しています。増田会にふさわしく、増田に関する郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの方がおりましたら、ぜひ提供をお願いします。

■提供先：幹事長 越後 英雄

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺版)3,000円となります。希望される方は、伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は、会員の皆様の会費によって賄われていますが、ここ数年会費の納入が遅れたり、未納となる会員の方がおります。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、未納の方には次回より案内状・たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は、横手市まちづくり推進部増田地域課へお知らせください。

■連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館
173番地/電話0182-45-5510

◆会 費 年額2,000円
(※振込手数料が発生する場合は、手数料も含んだ年会費とさせていただきます。詳しくは、別紙をご覧ください。
◆納入期限 令和4年10月7日(金)
※振込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入してください。